

2007 年度版 英語の辞書へのアプローチ

16th Edition (Since 1991)

関山 健治 (沖縄大学)

sekiyama.kenji@nifty.ne.jp

<http://www.sekky.org/jisho.html>

(ご注意)

- ★ この冊子に関する著作権は、関山健治が保持しています。無断転載、剽窃など、著作権の侵害となる一切の行為を固くお断りします。© Kenji SEKIYAMA, 1991-2007. All rights reserved.
- ◇ (複製, 再配布について) 個人利用 (ダウンロードや印刷して読む, 友人等にコピーをあげるなど) に関しては, 著作者名, 著作権表示を改変しない限り, ご自由に行ってかまいません。不特定多数へ配布する場合 (講義, ゼミや勉強会等の教材, 参考資料にするなど, 非営利利用に限ります) も同様ですが, 事後でもかまいませんので上記のメールアドレスにご一報ください。これ以外は, 事前にメールでご相談ください。
- ◇ (引用, 紹介など) 論文, レポート, 各種原稿, メールマガジン, ウェブサイト, ブログ等, 非営利のメディアで本稿の内容を部分的に引用, 言及される場合, 公開, 非公開を問わず, 必ず引用元を明示して, 著作権を侵害しないようご注意ください。営利目的での紹介 (雑誌, 新聞等のマスメディアでのご紹介, 言及など) は事前にメールでご相談ください。なお, 引用の範囲を超えた分量をネット等へ無断転載することは固くお断りします。

目次

1. 辞書の迷信を斬る!	2
迷信その 1: 「英語を身につけるには 1 冊の辞書をボロボロになるまで使い込め」!	2
迷信その 2: 「収録単語数の多い辞書がよい辞書である」!	2
迷信その 3: 「大学生になったら, 大辞典クラスの辞書でないと歯が立たない」!	3
迷信その 4: 「英語をものにするためには, 英和辞典を使ってはいけい。英英を使いなさい」!	4
迷信その 5: 「自分の手でページをめくって辞書を引くと, 単語も覚えらる。電子辞書は簡単に引ける分, 忘れるのも早い」!	4
迷信その 6: 「電子辞書を使えば授業の予習や読書が楽になる」!	4
2. 英和辞典について	5
2.1. 上級学習英和辞典 (総収録語数 10 万語前後)	5
2.2. 大規模英和辞典 (総収録語数 20 万語以上)	7
3. 和英辞典について	9
4. 英英辞典について	11
4.1. 英語を専門にするなら, 英英辞典は必須	11
4.2. 英英辞典の種類	11
4.3. サルでも使える英英辞典 - 英英辞典の使い方 実践編 -	13
Step 1: 知らない単語を英英辞典でひいてみよう (悪い使い方の例)	13
Step 2: 知っている単語をひいてみよう (よい使い方の例)	13
Step 3: 英和辞典でじっくりこないときに英英辞典を引いてみよう	14
Step 4: 英英辞典はこんな使い方もできます (応用編)	15
4.4. 外国人学習者向け英英辞典の種類	16
4.5. 英語母語話者向け英英辞典の種類	18
(番外編) Oxford English Dictionary (OED)	20
5. 類語辞典 (Thesaurus) について	24
5.1. アルファベット順シソーラスと意味概念別シソーラス	25
5.2. 英語学習者の観点からみたシソーラス	26
5.3. 外国人学習者向けシソーラスの種類	26
5.4. 英語母語話者向けシソーラスの種類	27
6. コロケーション (連語) 辞典について	28
★ 15 年目の『英語の辞書へのアプローチ』(2006 年度版あとがきにかえて)	30

1. 辞書の迷信を斬る！

◇ 迷信その 1 : 「英語を身につけるには 1 冊の辞書をボロボロになるまで使い込め」!?

★辞書の「賞味期限」に注意

英和辞典は、皆さんも 1 冊ぐらいいは持っていると思います。ほとんどの皆さんは、高校入学時に辞書を新しく買い、高校 3 年間の間、授業の予習に、受験勉強に、毎日のように使ったことでしょう。きっと、その辞書には愛着も人一倍あることと思います。

しかし、辞書は消耗品です。高校へ入学したときと、今の皆さんの英語力をくらべれば、格段の差があります。辞書も、それに応じて買い換えていく必要があるのです。とくに、高校入学以来の辞書をそのまま使ってきた人は、「大学入学記念」として、新しい英和辞典を 1 冊買うことを強くおすすめします。以下にあげたものの中から 1 冊選べばいいでしょう。とくに英語を専門に学ぶ皆さんにとっては、英語の辞書は「商売道具」です。「お金があれば、英語の辞書をもう 1 冊買おう」が合い言葉です。

昔から、手あかにまみれてボロボロになった辞書は、英語を熱心に勉強した証のようなもので、そのような辞書をもつことは誇りであるとされてきました。「プロの職人や芸術家が、何十年もの間、一つの道具なり、楽器なりを使い込むのと同様に、英語を学ぶ者は、1 つの辞書を徹底的に使いこなすべきだ」という考えには、一見、説得力があります。しかし、英語の辞書は楽器などとは違います。楽器は、何十年と使ってもその機能に変化はありません。20 年前のフルートでも、今のフルートでも、運指は同じですし、音色や音域も変わりません。このような楽器でしたら、使い込めば使い込むほど、演奏者は楽器のクセや特性をのみこめるため、いい音が出せるようになるのです。しかし、楽器の中でも、例えばシンセサイザーやエレクトーンといった電子楽器は別です。これらは、年々その機能が進歩しています。そのため、本職のミュージシャンなら、何十年も前の機種を頑なに使い続けるというわけにはいきません。何よりも、電子楽器は、原始的な楽器と異なり、演奏者の微妙な息づかいや、個々の楽器の癖といった経験的要素が音色に反映されにくいので、長い間 1 つの楽器を使い続けるメリットはそれほどないはずで

す。辞書に関して、シンセサイザーと同じことが言えます。辞書は、言葉という「生き物」を扱ったものです。私たちの日本語が日々刻々と変化しているのと同様に、英語もどんどん変化しています。最近の辞書編集は、コンピュータをフルに導入していることもあり、昔ほど時間はかかりませんが、それでも 1 つの辞書を作るには最低でも 5 年ぐらいいは要します。いくら 1 つの辞書を使い込んで、その辞書の特性まで熟知したとしても（そのような人が果たしてどのくらいいるか、という問題もありますが）、記述内容が古ければどうしようもありません。

試しに、あなたの持っている辞書で World Trade Center を引いてみてください。新しい辞書なら、2001 年の同時多発テロにより崩壊したという補足説明が載っているはずで

す。最近では電子辞書の普及で、辞書もこまめに増補されるようになりました。たとえば、『リーダーズ英和辞典』を使っている人は、Arafat (PLO の議長で 2004 年没) を引いてみてください。最新版は第 2 版 (1999 年改訂) ですが、同じ第 2 版でも内容に多少差があり、電子辞書の最新機種に搭載されているものには、「1929-2004」のように、没年も記載されています。ここまで新しい辞書を買う必要はないかもしれませんが、英語を学ぶ人なら、少なくとも今世紀に入ってから改訂された辞書を使うようにしたいものです。

◇ 迷信その 2 : 「収録単語数の多い辞書がよい辞書である」!?

★辞書は「大は小を兼ねない」

高校や予備校などの教育現場を中心に蔓延している迷信です。辞書会社もビジネスですから、同クラスの競合辞書よりも 1 語でも多くの単語を収録するように努め、辞書のケースなどに「類書中最多の〇〇語を収録」などと大きく記載します。そして、「類書中最多の語数を収録した辞書＝類書とくらべて最も良い辞書」という図式が出来上がってしまうのです。

そもそも、「収録語数」とは何でしょうか？ 「辞書に載っている単語の数に決まっているのではないか」と思うかもしれません。それなら、「単語の数」とは何でしょうか？ たとえば、goes, going, went, gone といった単語は、すべて go の変化形ですが、これらはバラバラにして 4 語と数えますか？ あるいは、go の変化形だから、すべてまとめて 1 語とカウントしますか？ もし不規則変化の語をバラバラに数えるのなら、規則変化の play, plays, playing, played…はどうでしょうか？ あるいは、color / colour といった英米でのスペリングの違いはどうでしょうか？

このように、一口に「単語」といっても、何を単語とみなすかで、かなり数え方は違ってきます。そのほかにも、辞書に載っている成句 (イディオム) を「単語数」にカウントするか、語義の最後に形だけ示している派生語はどうするか、など、問題はたくさんあります。そして、最大の問題は、このような数え方の基準が、辞書によって必ずしも統一されていないということです。そのため、同じ収録語数の辞書でも、実際の語数は辞書によってかなりばらつきがあります。

たしかに、難解な文献を翻訳したりする場合などは、単語数の多い辞書＝よい辞書、と言えるかもしれません。しかし、私たちは、翻訳だけでなく、英語を書いたり、文法事項を調べる時にも辞書を使います。語数が多い辞書だと、用例や文法表記といった、英語を発信する際に必要な情報がどうしても手薄になるので、英語を書く際にはあまり使えません。かといって、大学生の方が、中学校レベルの入門英和しか持っていないというのも考えものです。皆さんにとって最も大切なのは、読者対象の違う複数の辞書を購入し、必要に応じて使い分けるということです。大学生以上の皆さんが電子辞書を購入する場合は、少なくとも英和辞典は複数の辞書 (『リーダーズ英和辞典』と『ジーニアス英和大辞典』など) が搭載された機種を選ぶようにしましょう。

◇ 迷信その 3: 「大学生になったら、大辞典クラスの辞書でないと歯が立たない」!?

★学習英和辞典の収録語数を侮ってはならない

電子辞書の普及とともに、今まではごく限られた専門家や上級レベルの学習者しか使っていなかった『リーダーズ英和辞典』などの大辞典クラスの辞書が誰でも手に入るようになりました。そのためか、辞書をあまり知らない量販店の店員は「大学に入ったらリーダーズは絶対必要です」などと言って、本人の英語力や目的をあまり考えずに上級機種を薦めるようなことが増えてきたように思います。実際には、多くの高校生が使っている『ジーニアス英和辞典』(G3)などの上級学習英和辞典が 1 冊あれば、大学はもちろん、社会人の実務にも十分対応できるのですが、ネットに氾濫する情報を「耳学問」で鵜呑みにし、知ったかぶりをする人が非常に増えてきているのは残念です。

私自身、Time 誌のカバーストーリー約 1 年半の語彙リストを作成して検証してみました。カバーストーリーで頻出 (5 回以上出現) する語の約 7 割は、基本的な約 4000 語 (大学入試センター試験に余裕を持って臨めるレベルの語数) であるという結果が出ています。学習英和辞典の中でも最も入門的な辞書の一つであり、中学上級生から使える『ベーシックジーニアス英和辞典』でさえ 2 万語以上収録されていますので、専門用語や固有名詞を除けば、学習英和辞典 1 冊で十分対応できます。また、成句 (イディオム) や複合語などは、実際には学習英和辞典に出ている

のに、探し方が悪いために見つけられないだけであるということもあります。「迷信その 1」で、辞書は消耗品だという話をしましたが、辞書を買いかえる際に闇雲に語数の多い辞書に飛びつくのではなく、とくに大学新入生は 2.1. で紹介するような、用例や文法、語法解説の充実した上級学習英和辞典を選ぶようにしましょう。

◇ 迷信その 4: 「英語をものにするためには、英和辞典を使っているはいけない。英英を使いなさい」!?

★英英辞典は「英和辞典の上級版」ではない

この迷信のおかげで、今まで何人の英語学習者の人が「英英辞典ギライ」になってしまったことでしょうか。背景には「日本が出している (英和) 辞書よりも、海外の出版社が出している (英英) 辞書の方が高級で、良い辞書だ」という、変な欧米崇拜的な考えや、「英語で考える」ことが英語上達の秘訣だ、という見方があるように思えます。

確かに、英語力をつけるために英英辞典を使うことは大切なことですが、だからといって英和辞典が不要だというわけではありません。英英辞典の章でもふれますが、私たちにとっては、英和辞典と英英辞典を必要に応じて使い分けることが必要になります。

◇ 迷信その 5: 「自分の手でページをめくって辞書を引くと、単語も覚えられる。電子辞書は簡単に引ける分、忘れるのも早い」!?

★電子辞書ならではのメリットも多い

最近の電子辞書の普及とともに、こういうことがまことしやかに言われるようになりました。概して、(失礼な言い方ですが) 年輩の英語教師など、「機械もの」が苦手な人が言う場合が多いようです。

ページをめくって辞書を引くか、キーを押して辞書を引くか、という手法の違いが単語の記憶に影響を及ぼすという研究は、最近辞書関係の学会で発表されるようになってきてはいますが、まだ統一見解は得られていないのが現状です。このような段階で、英語教師の個人的な価値観を過度に生徒に押しつけることは生徒の反発を招き、逆効果になりかねません。

いずれにしても、仮にこのようなことが本当であるとしても、電子辞書にはそれを上回るメリットがいくつもあります。小型軽量なので場所を選ばず辞書が引けることや、紙の辞書より速くひけること、キー1つで他の辞書での引き直しができること、英作文の際に例文検索機能を活用することで、自然な英文を書くツールとして使えることといった、電子辞書の様々な特徴は、英語学習にプラスになることはあってもマイナスにはならないと思います。

もっとも、現在の冊子体の辞書が、内容的にも非常に素晴らしいものが揃っていることは紛れもない事実です。そのため、電子辞書なら何でもいいというわけではなく、冊子体と同内容を収録した(フルコンテツタイプ)電子辞書でないと英語学習のうえでは効果がないということは言えます(最近の機種はほとんどがフルコンテツモデルですが)。

◇ 迷信その 6: 「電子辞書を使えば授業の予習や読書が楽になる」!?

★紙辞書より時間をかけて電子辞書を引こう

電子辞書の中学、高校現場への急速な普及に伴い、電子辞書を「楽する手段」として考える

人が増えてきました。たしかに、電子辞書は紙辞書よりも速く引けることは事実ですが、その一方で、今までは辞書を引かない単語までどんどん辞書を引いてしまい、英文読解の際に未知語を類推するといったスキルの養成に支障をきたしたり、授業中にも簡単に引けるために予習をしてこない学生が増えたりといったことが、ここ数年の電子辞書の普及とともに多く指摘されています。

私としては、電子辞書のおかげで単語を速く引けるようになったことで「楽ができる」「予習時間が少なくてすむ」ととらえるのではなく、「今まで以上に辞書をじっくり読めるようになる」「今まで以上に深く調べることができるようになる」と考えることが重要であると考えます。「紙辞書よりも時間をかけて電子辞書を引く」ことがポイントです。英和で調べた単語から英英にジャンプし、英英辞典の定義、用例をじっくり読んでみたり、類語辞典(thesaurus)にジャンプすることで単語の量を増やしたりすることは、紙辞書では面倒ですが、電子辞書なら簡単にできます。また、和英辞典で引いた単語を英英、英和でダブルチェックすることで、より自然な英文が書けるようになるでしょう。学校の帰りのバスや電車の中では、居眠りをするかわりに電子辞書の履歴機能を使い、その日に引いた単語をもう一度振り返ってみることが、語彙を定着させるためにも有効です。

このように、電子辞書を「高級な豆単」として利用するのでなく、収録されているコンテンツや機能をフルに利用すれば、速く引けるはずの電子辞書が、実際には紙辞書以上に時間がかかるようになります。しかし、その労力によって得られるものは、紙辞書とは比較になりません。

2. 英和辞典について

日本で出版されている英和辞典の水準は、世界的に見てもトップレベルで、イギリスやアメリカの辞書出版社も、参考資料として使っているそうです。しかし、皆さんにとっては、数が多すぎてどれを選んだらいいのか分からないのではないのでしょうか？ 以下に、大学での英語学習に対応できる英和辞典の中から、代表的なものをいくつか紹介します。

2.1. 上級学習英和辞典 (総収録語数 10 万語前後)

最近では、電子辞書の普及により、『リーダーズ英和辞典』や『ジーニアス英和大辞典』といった専門家向けの辞書が安価に入手できるようになってきました。そのためか、「大学の授業では学習辞典では対応できない。リーダーズや大辞典クラスの辞書が必要である」などということがまことしやかに言われています。しかし、以下にあげたような上級学習英和がどれか 1 冊あれば、大学の授業だけでなく、*Time* や *Newsweek* といった高度なレベルの英文の読解まで十分に対応できます。もちろん、TOEIC®や TOEFL®, 英検 1 級レベルでも、数万語クラスの上級学習英和に出ていない単語は(固有名詞や一部の専門語以外は)まず出てきませんし、出てきたとしても基本的な英語の読解力(語彙力, 構文解析力)があれば、そのような難語は読み飛ばしても十分内容を理解できます。いたずらに語数の多い辞書を求めることは、基礎的な英語学習をする上では逆効果になりかねませんので注意が必要です。英語そのものを学ぶ場合(共通教育の語学講義など)には以下にあげるような学習英和辞典を主に使い、道具として英語を使う(上級学年で開講されている外書講読や卒論ゼミなどで英語の文献を読むなど)場合には、必要に応じて 2.2.で紹介する大規模英和辞典を併用すればよいでしょう。

(1) ユースプログレッシブ英和中辞典 初版(2004 年)・小学館

British National Corpus (BNC)という大規模コーパスをフルに利用した英和辞典です。他の辞書にくらべて収録語数は少なめですが、重箱の隅をつつくような細かな語法解説に力を入れた

辞書が多い中で、コーパスの結果をもとに英語学習者が疑問に思う点を中心とした的確な語法解説や、上級学習英和にしては豊富な文化背景の解説など、一般の英語学習、実務には必要十分な情報が盛り込まれています。とくに、多くの電子辞書に収録されている『ジーニアス英和大辞典』のような大規模英和辞典の情報量が多すぎると思っている人におすすめします。

※ 電子辞書版 (セイコーインスツル SR-G9000) あり。

(2) ジーニアス英和辞典 第 4 版(2006 年)・大修館書店

中学や高校で学習する基本語の記述の詳しきは文法書顔負けで、他の辞書の追従を許しません。総収録語数は 9 万語強で、授業の予復習や英字新聞、一般向け雑誌やペーパーバックの読解程度なら十分対応できます。英語を読むときだけでなく、書くときにも使える、詳しい辞書です。ただ、英語が苦手な人にとっては内容が詳しすぎるため、必要な情報が探しにくいと思うかもしれません。従来電子辞書の多くはこの辞書を収録していましたが、最近では、収録語数を増やすとともに、基本語にはより詳しい解説を盛り込んだ『ジーニアス英和大辞典』(2.2. 参照)を収録した機種も増えています。

(3) ルミナス英和辞典 第 2 版(2005 年)・研究社

1980 年代の高校学習英和の定番として圧倒的な人気を誇った『ライトハウス英和辞典』の上級版である『カレッジライトハウス英和辞典』を増補改訂した辞書です。細かな文法、語法解説よりも、辞書の基本である語義にこだわり、オーソドックスではありますが非常に見やすい辞書になっています。語義の展開図や日英比較の記述など、『ライトハウス英和辞典』で世間を震撼させた様々な新機軸はそのまま引き継がれており、高校上級生から一般社会人に至るまで、幅広いレベルの学習者に対応しています。とくに、非常に詳しい発音や綴り字の解説、文法書顔負けの文法解説など、付録の充実度は他辞書の追随を許しません。電子辞書版がないのが残念ですが、情報過多の傾向がある近年の上級学習英和の中で、学習者にとって本当に必要な情報を見やすく提示するというルミナスのスタンスは、これからの上級学習英和にも大きな影響を与えていると思います。

昨年改訂された第 2 版では、従来重要度表記 (星印) に加え、TOEIC®での頻度ランクも併記されており、資格試験対策にも有効です。また、コーパスをもとにした記述が増え、より客観的な辞書になりました。『ジーニアス英和辞典』とともに、上級学習英和の双璧をなすと言っても過言ではない辞書ですので、電子辞書化が望まれます。

(4) ウィズダム英和辞典 第 2 版(2006 年)・三省堂

10 年ほど『ジーニアス英和辞典』が幅をきかせていた上級学習英和辞典市場ですが、数年前に相次いで対抗辞書が出版されました。その第一陣が『ウィズダム英和辞典』です。ウィズダムはコーパスをフルに生かした編集で、実際に使われている英語の様子が、例文はもちろん、本文の記述にも他の辞書以上に反映されています。ジーニアスと同様に非常に詳しい辞書ですので、英語が苦手な人は骨が折れるかもしれませんが、英語を専攻する新入生はもちろん、英語学が専門の院生や英語教師にも役立つ辞書です。昨年改訂された第 2 版では、冊子版購入者に限り、無料でオンライン辞書版も使えるようになりました。

※ オンライン辞書版あり (冊子版購入者はユーザ登録により無料で利用可能)。

(5) レクシス英和辞典 初版(2002 年)・旺文社

英語運用力を身につけるための新機軸を多く搭載した辞書です。日常会話でよく用いられる定型表現や、言外の意味の記述など、従来の上級学習英和辞典が見過ごしがちな点が強化されています。コーパスのデータをそのまま反映させるのではなく、文法、語法で興味深い点を約 100 名の英語母語話者にインタビューし、その結果をまとめた Planet Board というコラムなど、言語の持つファジーな側面にも考慮がはらわれています。ウィズダムやジーニアスは文法や語法に関する記述が多いですが、レクシスはコミュニケーションに役立つ(話者の意図など)情報が充実しているのが特徴です。見出し語を精選するとともに、語用論的側面を重視した書き下ろしの Planet Board を収録した、高校生向けの『コアレックス英和辞典』も刊行されています。

2.2. 大規模英和辞典 (総収録語数 20 万語以上)

ここでは、大学の上級年次の学生が外書講読や卒論ゼミで専門的な文献を読んだり、英語を専攻する学生が文学作品を原書で読んだりする際に必要となる大辞典クラスの辞書を紹介します。ここで紹介する辞書は、学習辞書としての特徴も兼ね備えた『ジーニアス英和大辞典』を除き、もっぱら専門的な文章の読解や翻訳に特化した内容になっています。英語そのものの学習がメインの方は、2.1. でとりあげた上級学習英和辞典があれば十分です。そのため、大学新入生の皆さんは必ずしも購入する必要はありませんが、英語を専門にする 3 年生以上の人や、ゼミで英語論文を読むことの多い理科系学生、院生は、1 冊ぐらいいは持っていて損はありません。

(1) リーダーズ英和辞典 第 2 版(1999 年)・研究社

判型は『ジーニアス英和辞典』などの中型辞書とほぼ同じですが、例文や文法事項の解説といった、学習辞典的要素を割愛したかわりに、収録語数を大幅に増やし、27 万語近くを収録しています。普通の英和辞典に載っていないような固有名詞やスラング、略語などが豊富に収録されているので、1 語 1 句をもゆるがせにできない翻訳作業をする際や文学作品のペーパーバックなどを味読する際に便利です。

※ 電子辞書版 (各社) あり。

※ Windows / Mac 対応 CD-ROM 版あり。

(2) 研究社新英和大辞典 第 6 版(2002 年)・研究社

日本を代表する英和大辞典で、戦前からの長い歴史をもっています。とくに、文学作品などからの引用例文や、文学的色彩の強い訳語が多いので、英米文学を専門にしている人や、フィクションの翻訳に携わっている人には必携の辞書です。20 数年ぶりに改訂されましたが、単に新語義を増補するだけでなく、聖書やシェイクスピアにでてくるような古めかしい語もきちんと収録しているという点では、他の大辞典を寄せつけません。今年になって、KOD (研究社が提供する有料のオンライン辞書) に搭載され、『リーダーズ英和辞典』などと串刺し検索することができるようになりました。

※ 電子辞書版 (セイコーインスツル SR-G10000) あり。

※ 有料オンライン辞書版(<http://kod.kenkyusha.co.jp>)あり。

(3) ランダムハウス英和大辞典 第 2 版(1993 年)・小学館

米国で出版された英語大辞典(英英)を翻訳した英和辞典ですが、単なる翻訳でなく、例文や語彙を大幅に補充し、日本人の便を図っています。『研究社新英和大辞典』にくらべ、実用的な色彩が強く、時事英語やスラング、映画のタイトルや商品などの固有名が非常に多いのが特徴です。改訂から 10 年以上が経過し、多少古くなっている点は否めませんが、翻訳者をはじめ、プロには根強い人気があります。

※ 電子辞書版(セイコーインスツル SR-G9000, カシオ XD-GW9600)あり。

※ Windows/Mac 対応 CD-ROM 版あり。

(4) ジーニアス英和大辞典 初版(2001 年)・大修館書店

コンピュータコーパスをフルに活用して編集された 21 世紀の英和大辞典です。語数が多いだけでなく、類書に比べて用例も大幅に増強されました。文学作品や聖書からの引用はもちろん、天気予報や広告といった日常的なメディアの例文も多く入っています。他の大辞典は、語数が多いかわりに用例や文法解説は少なくなっているため、日常の英語学習(とくに、英作文など、発信面を学ぶ際)にはあまり役立ちませんが、『ジーニアス英和大辞典』は、学習英和辞典の代表格である『ジーニアス英和辞典』の詳細な解説や例文をベースに、収録語数や専門的な語義を増補したものですので、学習英和辞典としても使えます。

辞書としては異例の「大は小を兼ねる」ものですが、通常の学習英和辞典以上に詳しい記述になっているため、英語が苦手な人や高校生などは面食らってしまうでしょう。一人暮らしの学生にワンボックスワゴンが必要ないのと同じで、初学者の方は、まずは学習英和辞典で辞書の使い方に慣れることをおすすめします。

※ 電子辞書版あり(各社)。

※ Windows/Mac 対応 CD-ROM 版あり。

(5) グランドコンサイス英和辞典 初版(2001 年)・三省堂

辞書の老舗である三省堂が創立 120 年を記念して出した、日本で最大の英和辞典です。小型サイズの辞書ですが、収録語数 36 万語は、小型辞典はもちろん、大辞典をもしのぎます。リーダーズや大辞典クラスの辞書にくらべると、語数が多いぶん、1 語あたりの語義が簡略化されていますし、見出し語の選定に少なからずムラがある(米国の大学が、ごく小規模なコミュニティーカレッジを含めて網羅されているなど)ことや、カタカナ語をそのまま訳語にしている語が多いなど、大規模な対訳集に近い内容です。こういうタイプの辞書は、紙で出すよりもオンライン化して、随時更新することを売り物にするほうがいいのかもしれない。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり。

(コラム) 英語辞書交際録(その 1)ーライトハウス英和辞典ー

私が英語を学び始めてから今まで 20 数年の間で、様々な辞書に出会いました。英語学習の伴侶(はんりよ)として、5 年以上も「交際」している辞書もあれば、「一目ぼれ」をして買ってはみたものの、相性が合わないで本棚の隅でホコリをかぶっているものもあり、その数 100 冊弱(英和・和英・英英)ぐらいでしょうか。

私が高校に入って初めて買った辞書は、三省堂の『デイリーコンサイス英和・和英辞典』(当時は第 3 版)でした。そのころは研究社の『ライトハウス英和辞典』が絶賛されていて、学校でもあつせん販売していましたが、私はコンサイスを買いました。『ライトハ

ウス英和辞典』とほぼ同じ価格なのに英和と和英が一緒になっていて、語数も多く、しかも携帯に便利なサイズだったからです。サイズが小さいのに語数が多いということは、当然学習辞典的な要素がカットされているわけですが、「辞書は単語の意味を調べるものだから、語数の多い辞書の方がいい」と思っていた当時の私がそれに気づかなかつたのは仕方なかったのかもしれない。

高校 1 年の冬になって、コンサイズだけでなく学習英和も使ってみようと思い、『ライトハウス英和辞典』を購入しました。私にとって、ライトハウスには新鮮な驚きがありました。後に来る前置詞の種類や、その語が用いられる形を示した見やすい文型表示、単語の意味とともに掲載されている用例…すべて、デイリーコンサイズにはなかったものでした。今までは文型を調べるなどはいちいち文法書を引きつづけていたのに、『ライトハウス英和辞典』1 冊ですべてこなせるというのも魅力的でした。「こんなに便利な辞書があったのか」と感心したのを今でも覚えています。

1980 年代後半から 1990 年代前半にかけては、「学習英和といえばライトハウス」と言っても過言ではない状況で、私を含め、この辞書で英語の基礎力を身につけた人は数多いと思います。そのためか、当時の某予備校教師が出した『欠陥英和辞典の研究』(別冊宝島)の槍玉に上げられてしまい、誹謗中傷と言われても仕方ない内容で針小棒大に攻撃されてしまったのは、不運としか言いようがありません。しかし、今ではごく当たり前になっている学習英和辞典の特徴(語義の要約表示、重要語の大活字表記など)の多くは 20 年以上前に『ライトハウス英和辞典』で初めて実現されたことを考えても、『ライトハウス英和辞典』が日本の学習英和辞典に与えた影響は計り知れないものがあります。文法、語法研究の最先端を盛り込むというよりは、高校の授業傍用を想定し、受験英文法に即した文型表記や文法解説に徹するなど、高校生にとっての使いやすさにこだわった『ライトハウス英和辞典』のような辞書が、最近ではほとんど見られなくなりました。大規模スーパーにはない人間味が垣間見られた下町の商店街のような、今となっては希少価値の辞書といえるのかもしれない。

ライトハウスに出会うまで、コンサイズのような実用英和をむりやり高校の英語学習に使ってきた当時の私は、英語の辞書とつきあう上では大失敗だったと思います。語数が多い辞書が必ずしもよい辞書というわけではなく、高校生には高校生に適した辞書があり、高校生だった私はそれを選ぶべきだったのですから。しかし、この失敗から、辞書に人一倍とつかれるようになり、英語辞書学の研究者として辞書を論じ、執筆者として辞書に関わる機会にも恵まれました。『ライトハウス英和辞典』と後述の LDOCE こそが、私の研究生活の原点であるといっても過言ではありません。

3. 和英辞典について

和英辞典は、英和辞典や英英辞典ほど必需品ではありませんが、英作文の際や、英語で手紙を書いたりする際には重宝します。英語学習者が和英辞典を選ぶ際に注意すべきことは、例文が多く、説明の詳しいものを選ぶということです。小型辞書にみられるような、単に日本語に対応する英単語を示しただけの和英辞典なら、使わない方がましです。同じことは、高校生用英和辞典の巻末に付録でついてくる和英索引にも言えます。これは、和英索引であり、和英辞典ではありません。

和英辞典を新しく買おうと思っている人は、以下のものの中から選ぶことをおすすめします。ただ、いずれの和英辞典にも言えますが、和英辞典は、日本語に当てはまる英語の単語を示した、道しるべ的なものにすぎないことを覚えておいてください。そのため、和英辞典に載っている英語の訳語をそのまま使うと、思わぬミスの原因になります。和英辞典を引くときは、面倒がらずに、載っている英訳語を英和辞典や英英辞典で引き直し、文型やスピーチレベルなどを確認してから使ってください。電子辞書なら、ジャンプ機能を使うことで、こういった引き直し、引き比べが簡単にできます。

(1) スーパーアンカー和英辞典 第 2 版(2004 年)・学研

収録語数は少ないですが、従来の和英辞書と異なり、口語表現や日本独特の事物などを積極的に掲載しています。高校生、大学生が日常的に接する話題の例文が多いので、英作文には非常に便利です。他辞書の記述に引きずられるのではなく、編集主幹の山岸先生が長年思い描いていた理想的な和英辞典の姿を形にした温もりのある和英辞典であり、和英辞典の質の向上に大きく貢献した辞書と言えます。

※ CD-ROM 版あり。

(2) ジーニアス和英辞典 第 2 版(2003 年)・大修館書店

和英辞典の中に英和辞典を組み込んだ、「ハイブリッド方式」を初めて採用し、話題を呼んでいる辞書です。収録語数は少ないですが、『ジーニアス英和辞典』の内容を和英辞典の記述の中に盛り込んでいるので、英和辞典を引き直さなくても使えるのが魅力です。一方で、『ジーニアス英和辞典』の内容を機械的に裏返した（英和の訳語部分を和英の見出し語にして）ものがベースになっているので、用例が他の学習和英辞典にくらべれば少ないなどのデメリットもあります。第 2 版になって、基本語については思いきってページを割き、訳語の使い分けを詳しく説明するなど、「類語解説辞典」としても通用する内容に進化しました。

※ 電子辞書版、CD-ROM 版あり。

(3) ルミナス和英辞典 第 2 版(2005 年)・研究社

20 数年前に、日本の和英辞典の常識を根本から覆すような新機軸を満載して新刊行された『ライトハウス和英辞典』を受け継ぎ、収録語数を大幅に増やして上級レベルの学習者にも対応した和英辞典です。ただ英語の訳語を羅列するだけでなく、それぞれの語のニュアンスの違いなどにも言及しています。随所で、日本語と英語を比較し、英語学習者が誤りやすい点を丁寧に解説しているので、自然な英語を書く上でも役立ちます。旧版では、『ライトハウス和英辞典』で好評の、数十項目に及ぶトピック別の囲み記事が載っていましたが、今回の版で見出し語数が増えたためか、割愛されてしまったのが残念です。

(4) プログレッズ和英辞典 第 3 版(2001 年)・小学館

通常サイズの国語辞典とほぼ同じ、約 7 万語を収録した和英辞典です。収録語数が多いぶん、例文や用法の解説は若干少なめですが、かなり専門的な語でも掲載されているので、留学等で、英語を書く機会の多い人には手放せない辞書です。

※ 電子辞書版あり（セイコーインスツル SR-G9000 など）。

(5) アドバンストフェイバリット和英辞典 初版(2004 年)・東京書籍

日本人が、自分のことや日本のことを英語国民に発信するという点にこだわった上級学習和英辞典の新顔です。日本文化に関する見出し語や都道府県名などは、単体の日本文化辞典に匹敵するほどの詳しい説明がされていますので、留学先で日本について説明するときなどには重宝するでしょう。日本文化の特徴として海外でも最近注目されているアニメのタイトルも見出し語にするなど、他の上級和英辞典にない個性を持った辞書です。

(6) 研究社新和英大辞典 第 5 版(2003 年)・研究社

和英辞典では唯一の大辞典で、約 30 年ぶりに大改訂されました。用例は、まず日本語を専門とする執筆者が書き、その英訳文を英語が専門の執筆者やネイティブ・スピーカーが書くという方式をとっています。そのため、不自然な日本語が排除され、日本語のコロケーション辞典としても耐えうる分量の豊富な用例が最大の特徴となっています。10000 円以上しますので、皆さんが個人で買う性質のものではありませんが、専門用語を英語に直したりする際には図書館等で参照してください。

- ※ 電子辞書版あり (各社)。
- ※ CD-ROM 版あり。

4. 英英辞典について

(コラム) 英語辞書交際録(その 2) – *The New Horizon Ladder Dictionary* –

The New Horizon Ladder Dictionary というペーパーバックの辞書が、私と英英辞書との「なれ初め」でした。確か、高校 1 年の冬休みごろだったと記憶しています。収録語数は 10,000 語弱なので、基本的な単語しか掲載されていないのですが、例文が多く、また定義が非常に明快であることにひかれました。今思うと、高校に入ったばかりで辞書の知識など全くない若僧が洋書の英英辞書を買うというのは相当ませていたのでしょうか、幸いなことに(偶然にも?)この辞書は非英語国民向けに特別に編集されたものだったので、使いこなせなくて挫折するということはありませんでした。高校在学中は、『ライトハウス英和辞典』とあわせてこの英英辞書を肌身離さず愛用しました。『窓ぎわのトットちゃん』の英語版を、英英のみで読破したのもその頃です。高校の英語では、新出単語の意味を調べたり本文を和訳したりといった単調な作業が多くなり、それにつれて英語嫌いになる人も増えてきますが、私がそうならなかったのは、ひとえにこの英英辞書のおかげだと思います。英語を日本語に置きかえるという機械的な作業に加えて、英英辞書でパラフレーズ(言い換え)をすることによって英語を学ぶことの新しい光を見いだした、と言っても過言ではないでしょう。

初めて英英を使って以来、20 年が過ぎようとしています。言語学の研究者、英語教員として英語教育に携わっている今では、10,000 語そこそこの英英では全く歯がたちませんので、*Longman Dictionary of English Language and Culture (LDELIC)*、*Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD)*、*Collins COBUILD English Language Dictionary (COBUILD)*などの学習英英辞書やネイティブ向けの英英辞典を必要に応じて比較対照しながら使っています。英和辞典の訳語の羅列がわずらわしく感じられ、英英を主に使うようになった今となっては、高校の頃、初めて英英辞書を使ったときに感じた新鮮な喜びがなつかしく感じられます。しかし、思えば、これほど英語に関心を持ち、大学で専攻しようと思ったのもひとえに *The New Horizon Ladder Dictionary* のおかげであるといえます。このたった 1,000 円の英英辞書 1 冊が私の英語への興味を引き出してくれ、ひいては私の進路選択にも一役買ってくれたのです。もし、あのとき COD や POD といったネイティブ向けの難しい英英辞書を買っていたら、とても使いこなせなくて本棚でほこりをかぶっていたでしょうし、英語を専攻するなどということもなかったでしょう。

4.1. 英語を専門にするなら、英英辞典は必須

英英辞典は、いうまでもなく、英語を英語で説明した、いわば、私たちが使っている国語辞典の英語版のようなものです。英和辞典と違い、単語の「訳」が出ているわけではなく、単語の意味を英語で説明しているので、難しそうに思うかもしれませんが。また、昔はともかく、今では、英語圏の辞書会社さえ参考資料にしているような、非常に優れた英和辞典が数多く出版されていますので、あえて英英辞典を使わなくても、英和で十分なのではないか、と感じるかもしれません。

しかし、英語を専門にする人となれば、話は別です。日本語を介在しないで、英語を英語のまま理解することは、英語力をつける上でも非常に大切なことです。といっても、留学でもしない限り、日本語のない、英語だけの環境に身をおくというのは難しいと思いますが、英英辞典を使えば、少なくとも辞書を引いている間はそれができるわけです。

4.2. 英英辞典の種類

意外と知られていないことですが、英英辞典には大きく分けて「英語母語話者向け英英辞典」と「外国人学習者向け英英辞典」の 2 種類があります。英語母語話者向け英英辞典は、私たちが使う国語辞典のようなもので、英語を母語にしている人が、あやふやなスペリングを調べたり、細かな意味の違いを知りたいときに引くものです。*OED (Oxford English Dictionary)*などの専門家用の辞書はもちろん、丸善などの洋書コーナーにずらりと並んでいるペーパーバックの安価な(1000 円前後で手に入ります)英英辞書は、この種類のもので、母語話者用ですから外国人にとっては敷居が高く、かなり英語力のある人でも使いこなすのは骨が折れます。よく、英英

辞典を買ったけど難しすぎて…という人がいますが、そのほとんどは、英語母語話者向けの英英辞典を、小さいから、安いからといった理由で安易に買ったためだと思われます。

一方、外国人学習者向け英英辞典は、英語圏の辞書会社が、英語を母語としない人たちのために、特別に作った英英辞典です。英語母語話者向け英英にくらべてシェアが少ないぶん、値段は高め（安いものでも3000円前後はします）ですが、英語学習者に対して特別な配慮がされているため、日本人でも、高校生程度の英語力があれば、十分使いこなせます。

その、「特別な配慮」の一つが、定義で使われる語彙を、基本的な約2000語～3000語に制限（統制語彙）しているということです。「英英辞典は難しい」といわれる最大の原因は、定義に使われている単語が難しいということでしょう。ある単語を引いて、語義で使われている単語が理解できないと、今度はその単語を引き直し、そこにも理解できない単語があるとまたその単語を引き直す…ということをくり返すため、英英辞書を引くのが嫌になってしまった人はたくさんいます。外国人向けの英英辞典では、どんなに難しい単語でも、統制語彙（そのほとんどは、高校までに学習した単語です）のみを使って説明していますので、大学生の皆さんなら、十分理解することができるわけです。

英語母語話者向け辞書と外国人学習者向け辞書の難しさの違いを、dog という語の定義を比較してみましよう。

(英語母語話者向け英英辞典の場合)

dog: a domesticated carnivorous mammal that typically has a long snout, an acute sense of smell, non-retractile claws, and a barking, howling, or whining voice. (*ODE*²)

(外国人向け英英辞典の場合・タイプ1)

dog: an animal with four legs and a tail, often kept as a pet or trained for work, for example hunting or guarding buildings. (*OALD*⁷)

(外国人向け英英辞典の場合・タイプ2)

dog: A dog is a very common four-legged animal that is often kept by people as a pet or to guard or hunt. (*COBUILD*³)

どうでしょう？ 同じ dog という単語でも、辞書によってこれほど異なっているのです。英語母語話者向けの辞書では、domesticated「飼い慣らされた」、non-retractile「引っ込めることができない」などと、難しい単語が立て続けに使われていて、初めて英英辞典を使う人には、何のことかさっぱり分からないと思います。

一方、外国人向け辞書の定義は、同じ単語の説明かと疑うぐらい、非常に分かりやすく書かれており、皆さんの英語力なら、ぱっと見ただけで分かると思います。外国人向け英英辞書には、タイプ1のように、句で書かれているものと、タイプ2のように、文章で書かれているものがあります。タイプ1は、英語母語話者向けの英英辞典と同じスタイルなので、今後、英語母語話者向けの辞書を使う際にも戸惑わないと思います。一方、タイプ2は、文章になっていることもあり、ネイティブ・スピーカーが目の前で語りかけてくれるような臨場感があります。どちらがいいかは好みの問題ですが、今後、英語母語話者向けの英英辞典も使っていきたいと考えている人にとっては、タイプ1の辞書を選んだ方が無難でしょう。もっとも、最近ではタイプ1の学習英英辞典も、必要に応じてタイプ2のような文定義も採用しています。

4.3. サルでも使える英英辞典—英英辞典の使い方 実践編—

◎ 挫折しないための大原則「知らない単語をいきなり英英辞典でひかないこと！」＝「知らない単語はまず英和辞典で調べ、意味を知ってから英英辞典でひくこと！」

慣れるまでは、英英辞典を「英和辞典の代用品」としては使わないようにしましょう。言い方を変えれば、英英辞典を使うときは、必ず英和辞典も用意しましょう、ということです。知らない単語は、最初に英和辞典で意味を調べ、「知っている」状態にしてから英英辞典でひくようにしましょう。この大原則さえ忘れなければ、英英辞典を買ったお金に見合うだけの（使い方次第ではその何倍もの）英語力がつくことを保証します。

もしあなたの手元に学習用の英英辞典があったら、以下のステップに従って、実際に英英辞典をひいてみてください。※ 英語母語話者向けの英英辞典ではうまくいかない場合が多いので注意してください。

Step 1: 知らない単語を英英辞典でひいてみよう（悪い使い方の例）

皆さんの持っている英英辞典で、polemic という単語（＝皆さんがおそらく知らない単語）をひき、（英和辞典を引かないで）その意味を日本語 1 語で書いてください。

polemic: a written or spoken statement that strongly criticizes or defends a particular idea, opinion, or person (*Longman Dictionary of Contemporary English, 4th Edition*)

上の定義は、外国人向け英英辞典の 1 つである *LDOCE* のものですが、外国人向けの定義とはいえ、まったく意味の知らない単語の定義を読むのがいかに大変で苦痛か、実感できるのではないのでしょうか？ 仮にこの定義を「書かれた、あるいは話された陳述で、特定の考えや意見を、強く批判したり、擁護したりしたもの」のように、的確に理解できたとしても、これだけでは「中傷」「反論」など、色々な解釈ができるので、漠然としてよく分からないと思います。しかし、英和辞典を引けば、すぐに「激論」「論争」「論戦」といった訳が出てきます。

このように、知らない単語をひく、つまり、英和辞典の代用品として英英辞典を使うと非常に時間がかかり、結局は英英辞典をひくのは面倒だ、難しいとなってしまいます。初めて英英辞典を使って挫折し、二度と使わなくなるというのは、こういうケースが多いのではないのでしょうか？

Step 2: 知っている単語をひいてみよう（よい使い方の例）

次に、皆さんがよく知っている単語をひいてみましょう。ここでは、yell（叫ぶ）、giraffe（キリン）の 2 つを例にあげます。

yell: to give a loud sharp cry or cries as of pain, excitement, anger, etc.

giraffe: an African animal with a very long neck and legs, and dark spots on its coat.

単語の意味をすでに知っているなので、定義も分かりやすいのではないのでしょうか？ "Polemic" をひいたときと異なり、日本語で意味を知っているぶん、余裕が出てきます。そんな余裕があると、定義から意外な発見をすることができます。

（意外な発見の例）

◇ 「yell は、「エールをおくる」というような表現からも分かるように、試合の応援などで興

奮して「叫ぶ」という意味だと思っていたが、「痛み」や「怒り」で大声をあげるときにも使える」

☆ 「声大きい、というときに用いられる形容詞は loud である」

☆ 「キリンは、首が長いだけでなく、足も長い」

☆ 「キリンの「斑点」は spot という。それなら、部屋の壁などにできた雨漏りのシミも、似たようなものだから spot が使えそうだ」

他にももっと発見があるかもしれません。たった 2 つの単語を英英でひいただけで、これだけの発見があるのです。英和辞典や受験用の単語集で「yell=叫ぶ」、「giraffe=キリン」と覚えていた頃とは雲泥の差があります。このように、英英辞典には、英和辞典を使っただけでは得られない「おまけ」がたくさんついてきます。皆さんが英英辞典からもらった「おまけ」は、その場だけでなく、今後ずっと、皆さんが英語を使う際の役に立ちます。例えば、英作文で、自分の飼っている「ぶちの猫」を英語で言いたいときがあったら、ぶち=斑点だから、spot が使えるぞ、とピンとくるでしょう。そして、my cat which has black spots などという言い方が自然に出てくるでしょう。「キリン」をひくことによって、一見無関係な、自分の飼い猫のことまで表現できる英語力が自然とつく、これが英英辞典を使う醍醐味です。英英辞典を使うことにより、英語を読む力だけでなく、英語を書く力や話す力できえも身につけることができるのです。英語を話す力をつける方法は、何も英会話に限ったことではないということを知っておいてください。もちろん、実際にネイティブと話したり、発音を練習することも、英会話には大切な要素です。でも、いくら発音が上手でも、言いたいことが口をついて出てこなければ、会話にはなりません。

Step 3: 英和辞典でじっくりこないときに英英辞典を引いてみよう

日本語の「訳語」を示した英和辞典と異なり、英英辞典は英単語の「語義」を英語で示しています。そのため、英和辞典ではつかむことのできない細かなニュアンスや、多義語などで「なぜこんな意味があるんだろう」と腑に落ちなかったことが、英英辞典を使うと非常によく分かることがあります。

たとえば、beautiful という単語は中学生でも知っていますが、「美しい」と機械的に覚えている人が多いと思います。英英辞典を引いてみると、

beautiful: extremely attractive to look at (*LDOCE*⁴); …pleasing to the senses or to the mind (*OALD*⁷)

とあります。下線部からも、beautiful は「周囲とは一線を画するような、飛びぬけた美しさ」を表すこと、「精神的にも喜びを与えるような美しさ」であることなどが分かります。最近の英和辞典は、単語に含まれるニュアンスも括弧書きなどで訳語に反映させているものが多いのですが、それでもこのような微妙なニュアンスまで得ることはできません。

もう一つの例として、interesting を考えてみましょう。英和辞典では、「興味を引き起す、興味深い、関心を引き起す、面白い; 変った、特異な」などと出ています (『ジーニアス英和大辞典』から抜粋)。Interesting に「面白い」「興味深い」という意味があることは誰でも知っているでしょうが、「変わった、特異な」という意味を持つことはあまり知られていません。それにしても、「興味深い」と「変わった」という、一見全く違うように見える意味が、なぜ英語では同じ単語で表されるのでしょうか? こんな疑問も、英英辞典を引けば解決します。

interesting: attracting your attention because it is special, exciting or unusual (OALD⁷)

ここからも、interesting の原義は、「特別で、ちょっと変わっているから、(もっと知りたいなどとわくわくして)注意を引く」というイメージであることが分かります。言いかえれば、知的好奇心、探究心に基づいた「面白さ」であり、amusing のような、「人を笑わせたり、喜ばせたりする面白さ」とは(日本語ではどちらも「面白い」と表現しますが)全く性質の違うものです。

このように、英英辞典を使うことで、引いた単語の奥深くにあるほのかな「におい」をかぐことが可能になり、視覚(スペリング)、聴覚(発音)に加え、嗅覚(?)も使った単語学習ができます。

Step 4: 英英辞典はこんな使い方もできます (応用編)

以下のようなことを調べたいとき、今までの皆さんはどうしていましたか?

「タコの8本ある足を英語で言うと? Leg? Foot?」

英英辞典を使えば簡単です。タコの「足」を知りたいときは、「足」でなく、「タコ」をひいてみてください。

octopus: a sea creature with eight tentacles (=arms)

などと書いてあります。タコの足は leg でも foot でもなく、tentacle (一般的な単語なら arm) と言うのだということが分かります。「おまけ」として、creature (生物) という単語も学べます。Animal とどう違うのか、と思った人は、ついでに animal もひいてみてください。

このように、知りたいものそのもの(「足」)を辞書で調べるのではなく、知りたいものに関係のある単語(「タコ」)をひくことにより、英英辞典を和英辞典のかわりに使うこともできます。日本人が作った和英辞典と異なり、英英辞典はすべて英語のネイティブ・スピーカーが書いているので、信頼性も抜群です。ただ単に日本語の英訳が載っている和英辞典と異なり、英英辞典では先ほどふれたような、様々な「おまけ」をゲットできるのも大きなポイントです。そして、何と言っても、「タコの足」を知りたいときは、どの単語をひけば載っているだろうか、と考えなくてはならないので、単語を調べる、という作業も、少しは能動的なものになります。

同様に、以下のことも英英を使って調べてみましょう。

- (1) 「犬や猫の足を英語で言うと? Leg? Foot?」
- (2) 「象の鼻を英語で言うと? Nose?」
- (3) 「カンガルーの腹にある、子供を保護するための袋を英語で言うと? Pocket? Bag?」
- (4) 「カニやエビの「はさみ」は何て言うのですか? Scissors?」
- (5) 「ラクダのこぶを英語で言うと? Bump?」
- (6) 「サイコロの目を英語で言うと? Eye?」
- (7) 「ジョークを飛ばす、を英語で言うと? Fly jokes? Say jokes?」
- (8) 「歯と歯の間に物がはさまる、を英語で言うと?」

(参考: 磐崎弘貞著 「英英辞典活用マニュアル」(大修館書店))

4.4. 外国人学習者向け英英辞典の種類

以下に、外国人学習者向け英英辞典をいくつか紹介します。どれを選んだらいいかわからないという人もいると思いますが、選ぶ際には、上記で扱った単語や、中学校で習うような基本的な単語を、名詞、動詞、形容詞、それぞれいくつか引いてみて（たとえば、dog, begin, beautiful など）、一番分かりやすいと思うものを購入すればいいでしょう。英英辞典は、英和辞典にくらべればマイナーな存在なので、どこの書店にも売っているというわけではありません。都心部の大きな書店をあたってみてください。

(1) *Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD)* 第 7 版(2005 年)・Oxford University Press / 旺文社

OALD は、今から 50 年以上も前に A.S. Hornby 氏の編纂した *Idiomatic Syntactic English Dictionary (ISED)* という辞書が母体で、学習英英辞書の草分け的存在です。昔の *OALD* は文型表記が分かりにくく、とっつきにくかったのですが、最近の版では *LDOCE* の影響を受けて、3000 語の統制語彙の採用や、英和辞典のような直感的な文型表記になり、非常に使いやすくなりました。特に昨年改訂された第 7 版は、統制語彙にマークをつけたり、コーパスを駆使したコロケーション情報を囲み記事で豊富に掲載するなど、とても分かりやすくできています。基本 2000 語で定義されている *LDOCE* よりも統制語彙は多いのですが、その分より精密な定義がされています（たとえば、colour の定義を比較してみてください）。コーパスに完全準拠した *COBUILD* と異なり、用例はコーパスからの抜き出しではなく、コーパスの結果をもとに難解な表現を言い換えたり、短くするなど、学習者向けの配慮がなされています。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり（同梱）。

※ 電子辞書版あり（各社）。

(2) *Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE)* 第 4 版(2003 年)・Longman

今からもう 25 年以上前になりますが、*OALD* が事実上独占していた外国人学習者用英英辞典の市場に、すい星のように登場したのが *LDOCE* です。単なる単語の言いかえでなく、意味分析を元にした語義記述や、約 2000 語の統制語彙(controlled vocabulary)の採用などは、今でこそ珍しくも何ともありませんが、当時は非常に画期的でした。今までの英英辞典で大きな問題となっていた点の 1 つに、語義で用いられる単語が難解で、引きなおしをしないと使えない、という点がありましたが、統制語彙により、基本 2000 語ですべての語義が定義されている *LDOCE* なら安心です。初版は、アルファベットと数字の組み合わせで書かれた文法表記等、一般の学習者にはとっつきにくいところがありましたが、Longman 社独自の地道なユーザー調査が功を奏してか、版を重ねるにつれて、初学者でも使いやすいものに仕上がっています。最新の第 4 版では、本文がフルカラーになり、図版はもちろん、重要語を色刷りで表示するなど、格段に見やすくなりました。同梱の CD-ROM 版は、後述の *Longman Language Activator* の内容も盛り込まれており、付属ソフトとは思えない出来映えです。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり（同梱）。

※ 電子辞書版あり（カシオ XD-SW9200 など）。

(コラム) 英語辞書交際録(その 3) — *Longman Dictionary of Contemporary English* —

「その 2」でふれた *The New Horizon Ladder Dictionary* は高校 1 年生の私でも十分理解できる内容で、肌身離さず使っていました。そんなとき、書店で『英語の辞書を使いこなす』(笠島準一著 講談社現代新書)という本を見つけました。私が生まれて初

めて買った新書であり、何となく大人になったような気がしたのですが、この本は高校 1 年生の私にも十分理解できるほど平易で、しかも例や失敗談をふんだんにとりいれて、英語の辞書(英和, 和英, 英英)の使い方が説明されていました。『英語の辞書を使いこなす』は今でも講談社学術文庫で版を重ねている名著ですが、私自身、この本から多くを学びました。私が英語辞書学に関心を持ったのも「英語の辞書を使いこなす」の影響が大きいと思います。

この本の中で最も印象的だったのは、英英辞典には英語母語話者向けと学習者向けの 2 種類がある、という記述で、具体的な引用例をあげながら、これらの 2 種類の辞書の違いが説明されていました。中でも *LDOCE (Longman Dictionary of Contemporary English)* という学習英英辞書は、私でも十分理解できるような平易な定義で、しかも収録語数は通常の学習英和辞典なみにあるということが解説されており、興味を持ちました。*The New Horizon Ladder Dictionary* の唯一の欠点は、語数が非常に少ないことで、高校の教科書の単語でさえも載っていないものが多く、ふだんの予習では力不足だったからです。

翌週の日曜日、通っていた塾の中にある書店で *LDOCE*(当時は第 2 版が出たばかりでした)を見つけました。早速買おうと思ったのですが、定価が当時の値段で 3800 円もしたので、とても高校生の私に手が出るものではありませんでした。英語以外に学ぶ科目も多く、しかも得意科目にそんな大金はかけられないので、*LDOCE* は毎週 1 回塾へ行つたついでに書店に寄り、立ち読みするのが精一杯でした。

「大学へ行き、アルバイトを始めたら自分用の *LDOCE* を買おう。そうすれば、英語力が飛躍的につくに違いない」と心に決め、毎週毎週名古屋に出かけ、*LDOCE* を立ち読みしていたのも今となっては懐かしく思われます。後にも先にも、これほどまで欲しいと思った辞書は *LDOCE* しかありません。そして、英語を専門に学び、念願だった英語教師にもなった今、はたして当時のような純粋な気持ちで英語と向き合っているのだろうか、と自問自答することもしばしばです。余談ですが、大学に入学してすぐ、学内の売店で念願の *LDOCE* を手にいれました。*LDOCE* を初めて立ち読みしてから 3 年近くがたっていました。後日追加購入した同内容の *LDOCE* ハンディー版とあわせ、まさに身体の一部のように使い込んだことは言うまでもありません。

LDOCE の初版が出てから、四半世紀以上が過ぎました。私が高校生の頃は、高校生で英英辞典を使っている人は少なかったこともあり、英英辞典を使うことにちょっとした優越感を感じたものですが、最近ではほとんどの電子辞書に英英辞典が搭載され、誰でも引くことができるようになりました。英英辞典が身近になった現実を嬉しく思う反面、昔のように英英にあこがれの念を抱く英語学習者が少なくなってきたような気がしてなりません。

(3) *Collins COBUILD English Dictionary (COBUILD)* 第 5 版(2006 年)・Harper Collins / トムソンコーポレーション

COBUILD (コウビルド) とは Collins Birmingham University International Language Database の略で、5 億語をこえる Bank of English というコーパスをフルに用いた辞書です。そのため、学習者用といっても、記述の密度は非常に高く、研究用として内外の英語学者も使っています。他の辞書と異なり、いわゆる文定義を全面的に採用しているのも、慣れないうちは違和感がありますが…。例文はすべてが Bank of English からの抜粋(作例はない)なので、特殊な固有名詞が使われていたり、文脈が分かりにくかったりすることもあります。すべての例文は 1990 年代後半以降に実際のメディア(新聞、本、パンフレットなど)で使われたものなので、生きた英語にふれたい人にはぴったりでしょう。2 年前に改訂された第 4 版から本文が色刷りになり、カラー図版が追加されるなど、昔の *COBUILD* にくらべればとっつきやすくなりました。しかし、文法表記の記号が多いなど、初心者にはまだまだ敷居が高い辞書であることは事実です。また、改訂に伴い、用例がかなり減っていることは、教員や専門家の間では不満に感じるかもしれません。なお、SII の電子辞書に搭載されている *COBUILD* は、2001 年改訂の第 3 版をベースに新語を増補した独自バージョンです。そのため、用例の数は減っていません。

※ Windows / Mac 対応 CD-ROM 版あり(同梱)。

※ 電子辞書版あり(セイコーインスツル SR-G10000 など)。

(4) *Cambridge Advanced Learner's Dictionary (CALD)* 第 2 版(2005 年)・Cambridge University Press

1995 年に、英語教育の老舗ケンブリッジ大学出版局から発行された初めての外国人用英英辞書を全面改訂し、書名も変更して新たに出た辞書です。後発の辞書だけあって、*LDOCE* や *COBUILD* などの「おいしいところ」を吸収するとともに、類書に見られない新機軸も盛りこんでいます。たとえば、多義語の場合、従来の辞書のように、1 つの見出し語の中で 1, 2, 3…の

ように細分化するのをやめ、意味の核(core meaning)を guide word として最初に提示し、core meaning ごとに見出し語をたてています。そのため、例えば take という見出し語がいくつも連続していたりします。慣れるまでは奇妙ですが、従来の方式に比べて求める意味を探しやすいのは事実です。他の学習英英にくらべて用例が多く、語義よりも用例で語らせるというスタンスの辞書です。第2版の改訂はそれほど大きなものではありませんが、基本語に3段階の重要度レベルがついたり、コロケーションの記述が増えるなど、コーパスの分析結果を生かした内容になっています。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり (同梱)。

(5) *Longman Dictionary of English Language and Culture (LDELIC)* 第3版(2005年)・Longman / 桐原書店

LDOCE をベースに、約 15,000 語の固有名詞を増強した英英辞典です。映画のタイトルや、Cameron Diaz, Julia Roberts といった現在活躍中の人も含めた豊富な人名、地名、商品名など、大辞典クラスの英和、英英辞典にも載っていない固有名詞が豊富に掲載されているので、読むだけでも楽しい辞書です。ただし、ベースになっている *LDOCE* は、第2版(現行の第4版ではありません)なので、文法コードなどの記号が現行の *LDOCE* よりも多く、日本語で書かれた解説冊子がついていないこともあり、慣れないと面食らいます。

(6) *Oxford Guide to British and American Culture (OGBAC)* 第2版(2005年)・Oxford University Press

欧米の地名や人名といった固有名詞を中心に百科辞典的な解説をした、欧米の文化小百科事典とも言える辞書です。*LDELIC* と異なり、百科語彙に特化した「読む辞書」なので、*OALD* などの学習英英辞典と併用して使うことを前提にしています。固有名詞以外にも、pub や jazz といった、欧米の文化を語る上でのキーワードも豊富に収録し、通常の辞書以上の紙数を割いて解説しています。ネイティブ向けの百科事典とは異なり、収録語数は限られています。外国人向けに平易な文章で解説していますので、*OALD* の定義を読みこなせる人であれば、読解教材としても使えるのではないのでしょうか。

※ 電子辞書版あり (セイコーインスツル SR-G9000, キヤノン Wordtank G70 など)。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり (*OALD*⁷ (前述) に同梱)。

4.5. 英語母語話者向け英英辞典の種類

4.2.でもふれたように、英語母語話者向け英英辞典は外国人学習者にとっては難解ですので、必ずしも必要ではないかもしれません。外国人学習者向け英英に出ていないレベルの専門語は、大規模英和辞典で意味を調べれば用が足せまじ、専門語の多くは日本語と英語が1対1の対応をしていますので、英英辞典で調べる必要はそれほど多くないでしょう。しかし、学位留学をされる方や通訳などで、専門語を英語で説明したりする人にとっては母語話者向け英英辞典のお世話になる機会もあるでしょうから、主要な辞書を以下で紹介します。

(1) *Oxford Dictionary of English (ODE)* 第2版(2003年)・Oxford University Press

OED で有名なオックスフォード大学出版局が 1997 年に新刊行した *New Oxford Dictionary of English (NODE)* の改訂版です。*NODE* は、従来のイギリス系出版社の伝統にとらわれず、後述の *AHD* などを意識して一から編纂された辞書で、専門家はもちろん、一般家庭に 1 冊置いておくデスクレファレンスとしても非常に使いやすい辞書です。イギリス系出版社の辞書の大半は、長年「辞典」(ことば典)と「事典」(こと典)を明確に区別しており、*OED* や *COD* といった歴史の古い辞書はもちろん、*LDOCE* や *OALD* のような最近の外国人向け英英辞典でも、人名や地名といった固有名詞は収録しないというスタンスをとってきましたが、*NODE* ではアメリカのカレッジ版辞書のように固有名詞も豊富に収録しています。また、Oxford が独自に構築したコーパスの分析をもとに、より客観的な語法記述がなされています。ネイティブ向け辞書としては語義記述も丁寧で、用例も多く、日本人の英語学習者には以下にあげるアメリカ系カレッジ版辞書よりも使いやすいでしょう。最近では、多くの電子辞書にも搭載されるようになりましたので、学習英英辞典に物足りなさを感じる上級学習者が買い増しするのに最適な英英辞書です。なお、ほぼ同規模でアメリカ英語を優先した *NOAD* (後述) もあります。

※ 電子辞書版あり (各社)。

(2) *New Oxford American Dictionary of English (NOAD)* 第 2 版(2005 年)・Oxford University Press

イギリス英語優先の *ODE* と同規模で、アメリカ英語を優先させた辞書です。一般語の記述は *ODE* とほとんど変わりませんが、*ODE* にないアメリカの地名、人名などが大幅に増強されています (逆に、イギリスの固有名詞は *ODE* のほうが多いです)。姉妹版の *Oxford Writer's Thesaurus (OWT)* に収録されているコラムをもとに、語法や似た意味の単語の使い分けに関する注記が多く記載されているのは、*ODE* にない特徴です。

※ PDA (Palm, Pocket PC など) 用 CD-ROM 版あり (同梱)。

※ 電子辞書版あり (各社)。

(3) *Merriam Webster's Collegiate Dictionary (MWCD)* 第 11 版(2003 年)・Merriam Webster

米国では、「ウェブスター辞書によれば…」というように、「ウェブスター」が (権威のある) 大辞典の代名詞のように扱われています。しかし、有名な辞書編纂者 Noah Webster の血をひいている、「本物の」Webster 辞典はこの Merriam Webster 社の辞書のみです。*MWCD* は、Noah Webster 以来 100 年以上の歴史を誇り、カレッジ版辞書の最長老です。語義は非常に簡潔で、慣れないと理解しにくいと思います。配列が歴史的原則 (頻度順でなく、語源的に最も古い語義が最初に並ぶ) に基づいていることとあわせ、カレッジ版辞書の中では、もっとも敷居の高い辞書と言えるでしょう。語源は、初出年をピンポイントしていることが大きな特徴ですが、記述は非常に簡潔で、ある程度歴史言語学に通じていないと分かりにくいと思います。全体として非常に保守的なスタンスに立っているというのは評価の分かれるところです。発音表記の詳しきは、類書には見られない特徴ですが、全体のレイアウトが今一つで、*ODE* などに比べて見にくいというのが難点です。歴史が古いぶん、日本でもカレッジ版辞書の代表のように扱われることがよくありますが、初めて買うカレッジ版辞書としてこれを選ぶと挫折する可能性が大です。

※ Windows / Mac 対応 CD-ROM 版あり (同梱)。

(4) American Heritage Dictionary of the English Language (AHD) 第 4 版(2000 年)・Houghton Mifflin

AHD は、カレッジ版辞書としては珍しく図版を豊富に収録しており、日本の学習英和辞典顔負けです (他のカレッジ版辞書の 3 倍~4 倍ぐらい?)。しかし、図版を載せるための専用の欄外スペースを用意していることもあり、本文が圧縮され、見にくいような気がします。語法記述が充実していて、言語学者だけでなく、作家や詩人、ジャーナリストといった数十名からなる、usage panel という、いわば「語法審査員」を設け、彼らの見解を詳細に (パネルの中の何%が容認可能と判断した、というように) usage note で記述してあります。ただ、英和辞典の語法欄と異なり、あくまでもネイティブの立場で見ているので、日本人にとって知りたい語法情報が必ず載っているとは限りません。語義は、MWCD ほどではないものの、やや簡潔で、慣れないと分かりにくいかもしれません。用例は、他のカレッジ版辞書にくらべれば多く、引用例が中心 (出典付き) なので、文学系の人にも根強い人気があります。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり (同梱)。

(5) Webster's New World English Dictionary (WNWD) 第 4 版(1999 年)・MacMillan

WNWD は、カレッジ版辞書の中ではかなり保守的な部類に属し、新語の収録も慎重です。そのためか、大学に加え、大手の新聞社などでも標準辞書として広く使われています。語義の配列は、OED のような歴史的原理に基づきながらも、意味の流れを重視した独特の並びになっています。MWCD 同様、日常よく使われる語義が先頭に來ているとは限らないので、慣れないと戸惑います。他の辞書にくらべて用例は少なく、そのぶん、語義自体の密度が濃くなっています。まさに「読むための辞書」といった感じで、語義をじっくり読むと、学習英英辞典からも得られないような情報が得られるかもしれません。語源も非常に丁寧で、時として OED 顔負けの記述もあります。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり (同梱)。

(番外編) Oxford English Dictionary (OED)

OED は、イギリスのオックスフォード大学出版局から出されている、ことばの辞書としては「世界最大」「世界最詳」の「20 巻本」の英英辞書です。もうちょっと詳しく言えば、「単語の意味が古くからあるもの順に並んでいて (歴史的原理)」「言葉のあるがままの姿を忠実に記録していて (記述主義)」「言葉そのものの解説に焦点をあてた (ことば典的)」辞書です。1989 年に 20 巻本の第 2 版が刊行され、現在は第 3 版の編集が行われています。

英語を専門とされている方からは、「大学新入生の方を主な対象とした本稿でなぜ OED の話をするのか」とお叱りを受けるかもしれませんが、今のようなコーパスなど影も形もなかった時代に、これだけの分量の辞書を手作業で編纂したという驚異的な偉業について、ほんの少しぐらいは知っておいても損はないのではないのでしょうか。英文科、英語学科の学生でさえ、歴史言語学が専門でなければ OED を引いたことがないという者がごく普通であり、それどころか、OED という名前すら知らずに卒業していく学生でさえ珍しくないのですから。

なお、OED の歴史や編纂の背景といった (編集者 Murray の伝記的なことなど) ことはここではふれませんので、関心のある方は、英語辞書学の入門書や英語史 (近代英語以降の記述があるもの) のテキストなどを見てください。※ 以下の内容は、拙ウェブサイト以前から公開している内容に加筆修正したものです。

◇ OED を語るためのキーワード

◎ 世界最大の辞書

OED の総収録語数は約 62 万語で、英語に限らず、あらゆる言語の辞書の中でも世界最大級の辞典です。冊子体の OED をはじめて見た人は、全 20 巻、数万ページというボリュームに驚くでしょう。図書館の棚を一段丸ごと占拠して鎮座し、三方金、背革装丁の超豪華な OED には、一種の近寄りがたい威厳さえ感じます。OED の総文字数が世界中の英語母語話者の人数にほぼ匹敵するということからしても、その規模がいかに大きいか、分かると思います。このボリュームこそが OED を語るうえで最大の特徴でしょう。もっとも、CD-ROM 版ならたった 1 枚の 12 センチ CD に収まりますので、子供でさえ、片手で楽々と持てます。こうなると威厳も何もないのですが、たかが CD 1 枚ごときに 4 万円近くもする（昔はもっと高かった！）CD-ROM 版 OED が、数ある CD-ROM 辞書の中でも高嶺の花であることには変わりありません。

◎ 世界最詳の辞書

OED の収録語数が多いといっても、最近では、「ランダムハウス英和大辞典」（約 32 万語収録）や、「リーダーズ英和辞典」と「リーダーズ・プラス」（合計で約 45 万語収録）のような大英和辞典が日本でも発売されており、収録語数だけで見ると、OED に匹敵する辞書も少なからず出ています。OED のウリは、むしろ「最詳」のほうにあります。とにかく詳しいのです。単語のスプリングの史的变化、細かな語源記述、豊富な用例… 普通の人にとっては詳しくすぎるぐらいで、これが裏目に出て「OED は難しい」という印象を与えているのかもしれませんが。

しかし、大きくて詳しい、ということは見方をかえれば「余裕」を意味します。車を例にとってみましょう。必要最低限の装備しかない軽自動車でも、カーナビやエアバッグといった贅沢品を搭載した高級車でも、高速道路で名古屋から東京まで行けることには変わりありません。しかし、出せる性能の限界近くまで使って軽自動車の運転をするよりは、排気量の多い高級車に乗って、ゆとりある運転をしたほうが疲れも少なく、快適なドライブができるでしょう。

OED の「大きさ」「詳しく」も「余裕」につながっています。コンサイスのような小型辞典と違い、余白が十分にとってあり、活字も大きく、非常に読みやすくなっています。詳しい情報にしても、すべてを読む必要はなく、取捨選択して読めば、決して難解なものではありません。例えば、現代英語に関心がある人なら、OED に載っている古英語で書かれた用例などは読む必要はないわけです。

OED を使いこなせるか否か、それは、後でもふれますが、「自分が今 OED で見ている情報がどういう情報なのかということ把握し、それが自分にとって必要なものか否かを見きわめる」ことにかかっているとと言っても過言ではありません。

◎ 歴史的原理に基づいた語義配列

普通の辞書に比べて OED がとっつきにくく感じる大きな理由の一つに、語義の配列が歴史的原理(historical principles)に基づいていることがあげられます。私たちがよく使う英和辞書や学習者用の英英辞書では、頻繁に使われる語義が先に出ています。たとえば、nice という単語を引いてみると、「すてきな、楽しい」というような意味が一番最初に載っているでしょう。しかし、OED では、「馬鹿な」という、今では用いられていない意味から始まり、以下「好みにうるさい」「神経が細やかな」と続き、「素敵な」という意味はかなり後の方にならないと現れません。OED では、(大まかに) 初出年の古い順に語義が並んでいるわけです。そして、それぞれの語義には(知りうる限りでの) もっとも古い引用例(例文)から始まり、最低約 100 年

に 1 文の割合で、実際の文献からの引用例が、その文献の発行年とともに示されています。現在使われていない語義には (知りうる限りでの) 最終例が示されているので、用例と年代を眺めるだけで、ある単語の年輪というか、プロフィールがつかめます。

◎ 記述主義による編集

辞書には、大きく分けて、ことばの正しい使い方を模範的に示すことを目的としたものと、ことばの実態を記録することに主眼をおいたものがあり、前者を規範的(prescriptive)な辞書、後者を記述的(descriptive)な辞書と言います。大半の学習英和、英英辞典は規範的側面が強く、そのため、用例なども作例 (辞書に載せるために創作した英文) が中心となっています (COBUILD などは例外です)。しかし、OED は英語のありのままを記録することを目的とした記述主義を貫いているので、ほぼすべての用例が引用例 (実際の文学作品や新聞、雑誌などの文章から抜粋したもの) となっています。語義も、編集者の主観で勝手に取捨選択したりすることはなく、実際の英語で使われたものは、たとえそれが文法的、語法的に疑問が残るものであったり、短期間で消滅したものであっても、すべて収録し、それを引用例で実証するという編集方針をとっています。そのため、はじめて OED を開いた人は、語義の精密さと用例の多さにびっくりするでしょう。

◎ コトバの辞書

辞書には、大きく分けて言葉の意味を説明したもの (辞典) と、百科事典のように、事物を説明したもの (事典) があります。しかし、最近はその区別もあいまいになり、「辞典」であるのに図版や固有名詞といった百科事典的要素を盛り込んだものも増えてきました。

一般に、アメリカで出版される辞書は、人名、地名などの固有名詞を多く収録したり、図版を多数載せるといった、「事典」的な要素が強くなっています。AHD のように数千枚の図版を盛り込んだ辞書は言うまでもなく、比較的地味な MWCD や、OED と双璧をなす Webster's 3rd International Dictionary (Web³) でも少なからず図版が収録されています。

一方、英国で出版される辞書は、ごく一部の辞書 (LDELIC や ODE など) を除き、ほとんどが「ことばの辞書」に徹した編集になっています。OED も例外ではなく、固有名詞はほとんど収録されていませんし、図版もありません。Web³ に比べて OED がとっつきにくく感じるのもこんなところに原因があるのかもしれませんが。これは CD-ROM 版の OED でも同じことで、国旗をクリックすると国歌が流れたり、動画やカラー図版が楽しめるといった仕掛けのある、いわゆるマルチメディア CD-ROM 辞書に比べればつまらないと感じるかもしれません。

◇ こんなときに OED を

OED は歴史的原理に基づいた編集になっていますので、言うまでもなく、昔の英文を読むときには重宝します。

Linguistics としての言語学を専門にしている人にはあまり縁がないでしょうが、文学を専攻している人や、歴史言語学のような、いわゆる philology を専門にしている人なら、現代英語以外で書かれた古い英文を読むこともよくあるでしょう。そのような場合、現代英語が中心の普通の辞書だけではうまく解釈できないということも起こります。というのは、通常の辞書は実用本位の内容なので、現在使われている語義が中心になっているからです。先ほどあげた nice の場合、OED によれば、現在もっとも普通の語義である「すてきな」「良い」という意味は 1769 年が初出になっています。そのため、もし 18 世紀以前に書かれた文献を読む際に nice という単語が出てきても、いつもの感覚で「良い」と解釈してしまうとおかしくなってしまうわ

けです。

◇ OED が役に立たない場合

「OED は一番大きな英語辞書だから、どんな単語でも載っている」と考えている人が、英語を専門にしている人の中にも多くいます。そういう人たちは、大辞典にも載っていないような単語に出会うと「困ったときの OED 頼み」というわけで、普段は見向きもしない OED をひもとくのですが、それで解決するのは望み薄でしょう。確かに OED の収録語数は半端な数ではありませんが、その中の多くは、現在ではまったく、あるいはほとんど使われていない語（廃語）であることを知っておく必要があります。試しに、冊子体の OED を手にとって、適当なページを開いてみてください。至る所に、廃語、廃義を示す"†"の印が目につくでしょう。現代英語を読む限りでは、このような語や語義は必要ありません。研究社や小学館の英和大辞典か、『リーダーズ英和辞典』、『リーダーズ・プラス』などの固有名詞を多く掲載した一般英和辞典のほうがはるかに有用でしょう。特殊な固有名詞や極度に専門的な語彙、つい最近現れたような新語など、これらの辞書のいずれにも掲載されていないような語は、OED にだって載っていないと考えてまず間違いありません。それでは、古い英文を読む際は OED が万能かと言えば、そういうわけでもありません。OED には、中英語以前（1150 年以前）に廃用となった語や語義は記載されていないので、特に古英語を読む機会の多い人は注意が必要です。

たしかに、OED は、使い慣れれば豊富な情報が手に入ります。だからといって、どんなときでも OED を引け、というのも考えものです。近所への買い物や通勤といった用途なら高級車を使わなくても軽自動車ですすし、小回りが利くので狭い駐車場へ止めるときなども楽々です。同様に、英字新聞や雑誌を読んだりといった日常的な用途に OED を使う必要はないでしょう。

◇ OED を引くのは難しい？

全 20 巻という見かけの「ばかでかき」も手伝い、OED に指一本触れたことさえない人までもが、「OED は難しい」という先入観を持っているのは、非常に残念なことです。結論から述べますが、OED を引きこなすのは、決して難しくはありません！

◎ 難しく感じる理由 その 1:「普通の英語の辞書は 1 巻本なのに、OED は 20 巻もあるから、求める単語を引くときにどれを引いたらいいかわからない！」

OED も普通の辞書と同じで、単語は語頭からのアルファベット順で並んでいます。大半の百科事典同様、1 巻ですべてが収まらないので分冊になっているのです。そのため、abandon という単語を引きたければ、Vol. I を、zucchini なら Vol. XX を見ればいいのです。

◎ 難しく感じる理由 その 2:「OED は全部英語で書いてあるから、内容がさっぱりわからない！」

これは確かにその通りです。言ってみれば、OED は英英辞書の親分なので、英英辞典など見たことも使ったこともないという人にはつらいでしょう。でも、これは英英辞書全般に言えることであって、何も OED だけが悪いわけではありません。逆に、ふだんから英英辞書を使っている人にとっては、OED だって特別難しいというわけではありません。もちろん、外国人向けの学習英英辞書のわかりやすさには及びませんが、ペーパーバック版のネイティブ向け英英辞書よりは、OED のほうが無用な省略がない分、書いてあること自体はずっと分かりやすいと思います。学部大学生はもちろん、英語が好きで英英辞書を日常的に使っている人な

ら、高校上級生でも要領さえのみこめば (OED の記述の構成を知れば) 十分 OED が使えます。

◎ 難しく感じる理由 その 3:「ふだん英英辞書を使っている。でも OED はちんぷんかんぷん！」

たぶん、こういう人は、自分が今、OED のどういう情報を見ているかがはっきりしていないのだと思います。OED をひくということは、たとえば言えば、英語という大海原を航海するようなものです。大海原の真ん中で迷わないためには、地図や羅針盤 (最近では GPS でしょう) を使って、「自分が今どこにいるのか」を常に知っておくことが必要でしょう。一方、私たちがふだんよく使う普通の英和、英英辞書をひく作業は、プールで泳ぐようなものです。泳げる範囲は限られていますので、地図や磁石などなくても、自分がプールのどのあたりにいるかは目で見れば分かります。OED も、普通の辞書と同様、「見出し語」「発音」「語源」「語義」「例文」という、(大きく分けて) 5 種類の情報が含まれています。逆に言えば、OED も、普通の辞書も、載っている情報の種類自体に大きな差はありません (綴り字の変化や初出年といったものは OED 独特ですが)。これらの情報の「量」が、普通の辞書とくらべてとんでもなく多いだけのことです。たとえば、take のようにたった 1 語で数十ページを占領していたり、ある単語の、ある特定の語義の例文だけで数ページにわたっていたりというようなことは OED ではごく普通です。

OED をひくときは、常に「今自分はどのような情報を見ているのか」(発音なのか、語義なのか、例文なのか…) ということを把握するようにしましょう。そうすれば、例えば OED で、ある単語の語義だけを知りたいときは、膨大な例文はとばして読むとか、要領が身につけてきます。

(コラム) 英語辞書交際録(その 4) - Oxford English Dictionary (OED) -

高校時代に最も影響を受けた辞書が、ライトハウス英和と LDOCE であったことは先にもふれましたが、OED は大学に入ってから最も影響を受けた辞書の一つであると言えます。いや、厳密には大学に入る前から、というべきでしょう。

私が受験(入学)した名古屋学院大学は、大学の図書館が入試当日の父兄控室になっていました。本来受験生は入っていけないのですが、私は入試日の昼休みに図書館に入り、参考図書の棚を何気なく眺めていました。こういう受験生はあまり例がないのでしょうか、この話を友人にしたら「ふつう、入試の昼休みは次の試験科目の勉強をするか、勉強はすっかり忘れて雑談をしたりしない? 入試以外の「勉強」を入試の日にするというのも珍しいね」と笑われましたが。

ともかく、参考図書の棚でふと目に止まったのが、書棚一段を丸ごと占拠して鎮座する OED でした。背革装で三方金という豪華な装丁からして、英語学や辞書学など何も知らないタダの受験生の私にでも、なんかすごい辞書だな、ということぐらいは分かりました。手に取って見たのですが、何が書いてあるかさっぱり分かりません。唯一分かっていたのは、この辞書はとんでもなく大きい英英辞典なんだ、ということだけです。それでも、受験生の、それも英米語学科を志望している受験生の私にとっては、LDOCE の時のような新鮮な願望を感じました。LDOCE なら、今でもだいたい理解できるのだから、次は OED を使えるようになりたい、大学の英米語学科に入れば、それができると思ったわけです。休憩時間ぎりぎりまで OED を眺め、入試の続きを受けましたが、今までと違い、「受けさせられる」というよりは、この試験でいい成績をとれば OED を使いこなすこともできる、という気持ちで受けられたと思います。

今思うと、OED は歴史的原則に則り、歴史的に古い意味から順に並んでいたもので、通常の英和、英英辞典のような頻度順配列になれていた私にはとても歯が立たなかったのは当然でしょう。大学へ入って、OED の歴史や記述方法などを一通り知ってから、入試の時のように OED を手にとってみたら、入試の時とはまったく違い、すつと頭に入ってきたのです。そして、当時 OED がさっぱり理解できなかったのは、発音や表記、語義、引用例といった、OED の様々な項目を区別しないで(できないで)ごちゃまぜにして見ていたからだ、ということも分かりました。

いったんコツを飲み込めば、OED というのが実に面白い辞書であることが実感できました。今までは暗記の対象として機械的に覚えてきた多義語の意味などが、実際には英単語の長い人生の中で徐々に変化してきたんだということが分かり、単語 1 つ 1 つにもそれぞれ人間模様があるんだ、ということが感じられました。

幸か不幸か、OED が身近に感じられるようになってきた頃から、私自身の興味が、いわゆる純粋な英語学、言語学というよりは、よりマクロな視点からことばをとらえる方へ移っていきました。そのため、今では研究上の必要で OED をひくことがほとんどないというのは残念です。

5. 類語辞典(Thesaurus)について

類語辞典は、シソーラス(thesaurus)とも呼ばれています。シソーラスは、ある単語とほぼ同じ意味の単語(類義語)をリストアップしたもので、特に英語を書く際に役立ちます。英語は、日本語にくらべて同じ単語をくり返して用いることを好まないの、ある単語を似たような意味の別の語で言いかえる必要が、日本語以上に頻繁に生じます。皆さんの中で、日本語のシソーラスを使ったことのある人はほとんどいないのではないのでしょうか。シソーラスというものがあることさえ知らなかった人が多いかと思います。しかし、英語国民にとって、シソーラスは聖書と同じく必需品です。そのため、英語圏の国では、書店はもちろん、空港内の売店やコンビニなどでもたいていシソーラスを売っています。

皆さんにとって、シソーラスは、英和辞典や英英辞典のように、すぐには買わないといけないというものではありませんが、とくに英語を専攻する人や、留学を予定している人は、今後、長文の英語を書く機会が増えてくるでしょうから、今のうちに予備知識として知っておいてください。

5.1. アルファベット順シソーラスと意味概念別シソーラス

シソーラスには、アルファベット順配列のものと意味概念別分類のもの、大きく分けて2種類があります。これは、電話帳にたとえると五十音別電話帳(ハローページ)と、職業別電話帳(タウンページ)の違いのようなものです。

たとえば、「魚正」という魚屋の電話番号を知りたいとします。「魚正」という店名を知っていれば、ハローページで「う」の項を引くのが最も簡単です。しかし、店の名前がよく分からないときは、タウンページで「魚屋」という業種を探し、その中にある何軒かの魚屋から「魚正」を見つけだします。つまり、店の名前が分かっているならばハローページ、業種が分かっているならばタウンページというふうに使っています。

シソーラスについても同様です。アルファベット順配列のシソーラスは、電話帳で言うならハローページであり、電話番号(類義語)を知りたい店名(単語)が分かっている場合に使うものです。類義語を知りたい語を普通の辞書の要領で検索すると、その語の類義語が羅列されています。このタイプのシソーラスは、普通の辞書を使っている人なら、買ったその日から使えるので、非常に便利です。しかし、意味概念別分類のシソーラスと異なり、ある単語の類義語を知るという用途しかありません。

一方、意味概念別分類のシソーラスは、いわゆる英単語のタウンページであり、概念別に編集されています。たとえば、「果物」を表す英単語を知りたいときは、「fruit」という意味概念のところを見ます。すると、strawberry, apple, orange...といった果物が一覧できるわけです。その数は膨大で、きっと今まで見たことも聞いたこともない果物の名前がたくさん出てくることでしょう。それらを英和や英英で調べてみるのも面白いものです。意味概念別分類のシソーラスでは、似たような意味概念が隣り合うようにして配列されています。そのため、「果物」が載っているページのすぐそばに、「野菜」という意味概念も見つかるはずですが、このようにすると、単に類義語を調べるツールとしてだけでなく、英語を書く際に考えをまとめるための道具にもなりますし、英語教師なら、語彙指導や教材作成のリソースとしても使えます。

今お話ししたように、意味概念別分類のシソーラスは、「単語」というより「意味」という単位で類義語を配列しているので、どのような意味概念があるのかをある程度知っていないと使いこなせません。これではあまりにも不便なので、単にある単語の類義語を調べたい人たちに、ある単語が何ページにあるかを示したアルファベット順のインデックスを、巻末に備えています。そのため、このインデックスを使ってある単語の掲載ページを知り、そのページを検索すれば、アルファベット順配列シソーラスのようにも使えます。しかし、一旦インデックスを引いて求める単語の記載ページを知り、そのページにアクセスし直す必要があるため、アルファベット順配列シソーラスよりも手間がかかります。

5.2. 英語学習者の観点からみたシソーラス

アルファベット順配列のものにせよ、意味概念別分類のものにせよ、市場に出ているシソーラスの多くは、類義語を羅列しただけです。普通の辞書と違い、語義やスピーチレベルといった付加情報はほとんど記載されていません。このようなシソーラスは、英語母語話者が、もともと見聞きしたことのある類義語を思い出すための「道しるべ」となるのを目的に作られているので、単語だけ羅列すれば用が足りるからです。

しかし、私たちのような英語学習者にとっては、語義がついていないシソーラスはとても不便です。単語を羅列しただけでは、その単語がどういう文型で使われるか、またどんなスピーチレベルで用いられるか（インフォーマルな語か、フォーマルな語か）、どちらの単語がより文脈にふさわしいか、といったことは分かりません。

そこで、最近では、語義の羅列でなく、英英辞典なみに語義やスピーチレベル、文型表記などを記載した英語学習者用シソーラスも、少数ではありますが発売されています。英語を母語としない私たちにとっては非常に重宝しますが、語義の記述があるぶん、収録語数はかなり少なくなり、10,000～20,000語程度のものがほとんどです。

5.3. 外国人学習者向けシソーラスの種類

(1) *Longman Language Activator (LLA)* 第2版(2002年)・Longman

英作文に大変重宝する辞書です。単語を意味分類によってシソーラスのように並べ、それぞれのニュアンスや用法の差に重点をおいて丁寧に解説しています。ネイティブ向けのシソーラスと異なり、類語間のニュアンスやスピーチレベルの違いを、統制語彙を用いて外国人学習者でも理解しやすいように平易に説明しており、*LDOCE*などの外国人向け英英辞典を補完する秀逸な辞書です。通常の辞書は、主に英語を読む（受信）際に遭遇した未知語をひくものですが、この辞書は、英語を書く（発信）際に、自分がすでに知っている単語をひき、より適切な表現を探すためのものであるという点が特徴です。シソーラスを使ったことのない人は戸惑うかもしれませんが、慣れてしまえば和英辞典に頼るよりも自然な英語が書けるので、私たち外国人学習者にとってこの上もない武器となってくれます。このような意味分類ごとに配列されているシソーラスは電子辞書版のほうが使いやすいと思います。

※ Windows対応 CD-ROM版あり (*LDOCE*⁴ (前述)に同梱)。

(2) *Oxford Learner's Word Finder Dictionary* 初版(1997年)・Oxford University Press

類語辞典というよりは外国人学習者向けのトピック別表現辞典であり、基本的なキーワードを見出し語にして、その語に関する表現や関連語を従来のシソーラスよりも幅広く載せています。ネイティブ向けの *Word Menu* (後述)と同じようなコンセプトの辞書ですが、名詞を中心に専門用語まで網羅している *Word Menu*とは異なり、*Word Finder*は日常的な単語を中心に、単語レベルから文レベルまで幅広い表現を集めています。たとえば、*drink*を引くと、飲み物の種類(*coffee, soda, water...*)や飲むことに関係したさまざまな動作 (*get a drink, swallow, pour...*)、飲み方(*swig, suck, gulp...*)、乾杯に関する表現(*Cheers!, drink to someone's health, propose a toast...*)といったさまざまな種類の表現が一覧できます。ESLのクラスなどでトピックを与えられてエッセイを書く際などに大変重宝する辞書です。

- ※ 電子辞書版あり(セイコーインスツル SR-G9000)。
- ※ Windows 対応 CD-ROM 版あり (OALD⁷ (前述) に同梱)。

5.4. 英語母語話者向けシソーラスの種類

(1) *Oxford Thesaurus of English (OTE)* 第 2 版(2004 年)・Oxford University Press

アルファベット順シソーラスの中ではもっとも大きなものの一つです。収録されている類語の数も非常に多く、外国人学習者はかなりの英語力がないと使いこなせないでしょう。*OTE* やそのアメリカ英語版である *AWT* は、従来のシソーラスの守備範囲である類語 (*drink* に対する *swallow*, *sip* など) に加え、関連語 (*drink* に対する *beer*, *coffee*, *tea*, *wine* など) もリスト形式で豊富に収録しているので、英語を書くときだけでなく、クロスワードパズルを解いたり、関連する物の名前を調べる際にも役立ちます。また、数は少ないですが、類語間のニュアンスの違いを説明した "Choose the Right Word" というコラムなどもあり、上級学習者が語彙力をつけるにも最適でしょう。

- ※ 電子辞書版あり (各社)。

(2) *Oxford American Writer's Thesaurus (AWT)* 初版(2004 年)・Oxford University Press

OTE のアメリカ英語版ですが、*OTE* より若干小規模です。しかし、類語間の意味の区別を扱った "The Right Word" は *OTE* よりも数が多く、現役作家やジャーナリストが特定の語の用法に関して (時には主観的に) 深く述べた "Word Note" というコラムは、語法好きな日本人でも楽しめます。

- ※ 電子辞書版あり (セイコーインスツル SR-G9000, キヤノン Wordtank G70)。

(3) *Roget's International Thesaurus* 第 6 版(2001 年)・Harper Collins

意味概念別シソーラスの代表的なものです。25 万語以上を収録しているので、たいていの単語は入っていますが、先にもふれたように、類義語が羅列してあるだけなので、それぞれの語のニュアンスの違いなどは分かりません。なお、カシオの電子辞書の一部に搭載されている *Longman Roget's Thesaurus American Edition* もこれと同じようなものです (見出し語入力による検索のみで、意味概念からの検索はできません)。

(4) *Random House Word Menu* 第 2 版(1997 年)・Random House

Word Menu は主題別事典とでも言うべきもので、経済学用語辞典、物理学用語辞典といった、あらゆる分野の専門用語辞典を簡略化して寄せ集め、レストランのメニューのような分野別目次とアルファベット順索引をつけたものです。専門用語辞典 (glossary) は高価で、説明も難解なものが多いのですが、*Word Menu* は様々な分野の重要語 (主に名詞) に絞って簡潔に説明しているので、留学等で未知の分野を学ぶ際の予習用としても最適です。

この辞書を使いこなすと、普通の辞書では手に負えないような事柄も簡単に解決します。例

えば、理系の人で元素名の英訳を知りたい場合、水素(hydrogen)や亜鉛(zinc)ぐらいなら和英辞書をひけばいいのですが、ルテチウム(lutetium)やローレンシウム(lawrencium)といった場合は和英にも掲載されていません。そんなときは、巻頭のメニューから sciences→chemistry→element とたどっていけば、たちまち 103 元素の一覧が現れます。あるいは、「○○マニア」を表す語(心理学用語)の種類を知りたいければ、social sciences→psychology→manias で OK です。もちろん、mania を単語索引でひいても得られます。

※ Windows 対応 CD-ROM 版あり。

6. コロケーション (連語) 辞典について

コロケーション辞典は、電子辞書の普及により知られるようになった辞書の一つであり、単語と単語の結びつき(コロケーション)を示した辞書です。たとえば、「腐った牛乳」「腐ったバター」と英語で言いたいとき、前者は sour milk、後者は rancid butter という言い方をすることが多いです。「腐った」という意味は同じであるのに、*rancid milk, *sour butter とは通常は言いません。こういった、文法などで説明がしにくい、慣用的な語の組み合わせは、母語話者であれば無意識のうちに習得していますが、外国人にとっては上級レベルの学習者でも非常に難しいものです。このようなときは、コロケーション辞典を引くと便利です。たとえば、butter を引くと、butter とともに用いられる(共起する)語が品詞別にリストされています。上述の例なら、形容詞のところを見ると、rancid butter という組み合わせが出ているので、「腐ったバター」というときは rancid を使うということが分かります。もちろん、bad を使えばバターでも、牛乳でも意味は通りますが、よりネイティブに近い表現をしたい場合はコロケーション辞典が役に立ちます。コロケーションを身につけることで、日常的なことをより幅広く表現することが可能になります。

なお、大学生協モデルや英語上級者向けの電子辞書には、以下に紹介する 2 冊のコロケーション辞典のいずれか(または両方)が収録されていますが、電子辞書版は紙辞書版に加えて、見出し語以外からの検索もできます。紙版のコロケーション辞典は、名詞を手がかりに、その名詞と共起する動詞や前置詞、形容詞を引くものですから、名詞から引くことはできても、動詞、形容詞などから引くことができません。しかし、電子辞書版なら、コロケーション検索機能を使うことで、以下のように紙辞書では不可能な検索もできます。

- ◇ 連語検索で「動詞＋名詞」を指定してキーワードに「動詞」を入れる：「その動詞がとる目的語にはどのようなものがあるか」がわかります。
- ◇ 連語検索で「動詞＋名詞」を指定してキーワードに「名詞」を入れる：「その名詞にはどのような動詞が共起するか」がわかります。たとえば、「スープを飲む」場合は、eat を使い、drink soup とは言わないと受験英語などでは教えています。soup をキーワードにして「動詞＋名詞」のパターンで検索すると、実際には(スプーンなどを使わずに直接飲む場合は) drink soup とも言うことが分かります。
- ◇ 連語検索で「名詞＋動詞」を指定して、キーワードに「動詞」を入れる：「その動詞の主語にはどのようなもの(人か、物か…)がくるか」がわかります。
- ◇ 連語検索で「名詞＋動詞」を指定して、キーワードに「名詞」を入れる：「その名詞が主語の場合、どのような動詞がくるか」が分かります。
- ◇ 連語検索で「形容詞・名詞＋名詞」を指定して、キーワードに「形容詞」を入れる：その形容詞と共起する名詞の種類(いわゆる選択制限)がわかります。たとえば、キーワードに rancid を入れると、名詞には、butter, cheese, oil などの油脂製品しかこないの、「バナナが腐る」とときには使えないことが分かります。逆に、キーワードに「名詞」を入れてやると、その

名詞の「仲間」が表れます。たとえば、bus を入れれば、○○bus の種類が出ます。

(1) 新編英和活用大辞典(英活) 初版(1995 年)・研究社

この辞書の前身は、勝俣銓吉郎氏が戦時中に集めた膨大なコロケーションをもとにしたものであり、日本の英語辞書史にも刻まれる名著です。長年改訂がされていみせんでしたが、1995 年に大改訂が行われ、当時の用例の半数以上が差し替えられました。合計 38 万という膨大な句例、用例は、日本で出版されている辞書はもちろん、英語圏の辞書でも 1 巻本では例がないのではないのでしょうか。しかも、ほとんどすべての用例に日本語訳がついているので、英語を書くときだけでなく、翻訳の際にも非常に役立ちます。私自身、ある研究書の翻訳をした際、この辞書には非常に助けられました。ただ、勝俣氏が執筆した頃から数えると 70 年近くが経過し、大改訂からも 10 年以上たっていますので、時として古めかしい例文にあたることもあります。受信用（翻訳など）に使うならともかく、発信用（ライティングなど）に使う際は、次にふれる(2)をまず参照したほうがいいかもしれません。

※ 電子辞書版あり（各社）。

※ Windows / Mac 対応 CD-ROM 版あり。

(2) Oxford Collocations Dictionary for Students of English (OCD) 初版(2002 年)・Oxford University Press

海外の出版社から外国人向けに出されたコロケーション辞典です。英活と異なり、共起する語を羅列して、その中の一部に用例をつけていますので、用例の数ではとても英活には及びません。当然、日本語訳もありませんので受信用には使えません。一方で、British National Corpus などの大規模コーパスをもとに編纂されているので、内容的にも新しく、外国人が英語で表現する際に必要となる語を中心に選定していますので、私たちが日常の英語学習に使うにはこちらのほうが手頃です。

※ 電子辞書版あり（各社）。

◎ 拙著『辞書からはじめる英語学習』のご紹介

※ 『辞書からはじめる英語学習』では、辞書の情報の読み取り方や電子辞書の使い方など、このガイドでふれられていない辞書の活用法を解説しています。高校生から専門家の方まで、幅広い皆様にご一読をおすすめします。

第 1 部 「英語辞書の迷信を斬る」

第 2 部 『英語辞書引き検定』で学ぶ辞書の読み方

第 3 部 「電子辞書の世界」

コラム、主要英語辞書のガイド、英和・英英辞典の記号対照表など。



付・15 年目の『英語の辞書へのアプローチ』(2006 年度版あとがき)

※ この「あとがき」は昨年度版のものです

『2006 年度版 英語の辞書へのアプローチ』は、今から 15 年前、大学学部 2 年次の 1991 年はじめに、サークルの新入生向けに作成した数ページの小冊子がもとになっています。のほほんとした学生生活の中でエネルギーを持て余していたためか、今読み返すと青臭い記述が散見され、とても直視できるものではありません。しかし、幸いにも当時のサークル関係者に加え、他大学、他専攻の同級生の方々からもさまざまな助言やご教示をいただき、その内容を反映させながら、ほぼ毎年細かな加筆修正を重ねてきました。1997 年秋に個人ウェブサイトを立ち上げてからは、ウェブ上でも公開していますが、出版社さんや電子辞書メーカーさんを含め、内外の辞書関係者の皆様からもさまざまなお褒めの（お叱りの）コメントをいただくことが多くなり、身の引き締まる思いがしております。15 年前にお世話になった同級生の皆さんの中には、今でもいろいろとご教示くださる方もいらっしゃり、これらの貴重なコメントの多くは今年度版でも反映されています。

2006 年度版では、ほぼ 10 年ぶりに大幅に内容を増補しました。拙サイトの「電子辞書掲示板」で、電子辞書に収録されているコンテンツのご質問が非常に多いことをふまえ、電子辞書化されている英語系コンテンツの多くを新たに追加しました。大学新入生だけでなく、英語を専門にする院生や英語教員の方も視野に入れ、ネイティブ向け英英辞典や *OED* に関する項も新設しました。また、既存の項目にもすべて目を通し、必要に応じて加筆修正をしています。

この 15 年間で、辞書業界も大きく変わってきています。奇しくも同じ 15 年前にフルコンテンツ第一号機が発表された電子辞書は、今では国内 5 社がしのぎを削る大きな市場となりました。それに伴い、特定コンテンツの寡占状態が生まれ、電子辞書に搭載されていない辞書の良さが一般に伝わりにくくなってきています。そのため、本稿では、電子辞書化されていない辞書も可能な限り詳細に扱うよう心がけたつもりです。

私自身も、学部学生から院生に、院生から専任の大学教員にと、15 年の間に環境が大きく変わりましたが、辞書を（さらには、ことば全体を）慈しむ気持ちは、昔も今も全く変わりません。早期英語教育がもてはやされる一方で、「キモい」「ウザい」といった、時には人の命さえも奪ってしまう若者ことばが横行し、日本語・英語のバランスのとれた「ひとに優しい」語学教育が求められていますが、その最大のよりどころとなる「辞書」に対して正しい知識を伝えていくことは、英語辞書学を専門とし、実際の辞書執筆にも携わる私の責務でもあると認識しております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

2006 年 3 月 関山 健治 (沖縄大学)